

『常磐大学大学院学術論究』
学術雑誌執筆要項
(2017年度版)

I. 『常磐大学大学院学術論究』への投稿に関する諸注意

『常磐大学大学院学術論究（以下、学術論究）』は、常磐大学大学院の趣旨ならびに特色を考慮した学術専門雑誌です。本大学院学術論究発行規程第 5 条第 1 項が定める学術論文などを掲載します。

投稿論文等は、その内容が過去に他誌に掲載（注：抄録のみの場合は除く）されていないもの、あるいは現在投稿中もしくは掲載予定でないものに限り、新発見の所在が明確で、要旨が一貫して明解な論文をお寄せください。記述は簡潔にし、類似する図表は省略してください。

なお、掲載されたすべての論文の著作権は著者に帰属しますが、著作権は常磐大学大学院（以下、本学）に帰属します。また、掲載された論文は電子化し、本学ホームページで公開します。

投稿について

投稿は有資格者に限り、本文は原則として邦文、英文のどちらかとします。英文の場合、ネイティブの専門家の校閲を受けることを原則とします。

投稿原稿は公示（掲示および学内資料の配布）によって募集し、掲載の採否を編集委員会にて決定し、郵送にて投稿者にお知らせします。採用となった場合は掲載受付証を発行します。

なお、投稿論文数が 2 編以下の場合は、休刊にすることがあります。

1. 原稿の提出について

原稿は、コピーを含めて計 2 部とその内容を保存した電子媒体（CD-R または USB メモリとし、原則として MS Word で入力したもの）を学事センター研究教育支援係に、指定された期日までに提出してください。

教員以外の投稿者（大学院生）は、研究指導教員あるいはこれに準ずる教員（リーダーも含める）の推薦文（研究指導教員評価シート）をつけて提出してください。ただし、研究指導教員あるいはこれに準ずる教員（リーダーも含める）が、共著者になる場合はその限りではありません。

なお、著者の責任において、原稿の損傷・紛失に備えてコピーを保存してください。

採用となった場合、校正は初校のみとし、著者にお願いします。校正期間は 2 日間で字句のみとします。校正段階での加筆訂正は原則として認めません。

投稿にあたり規定が遵守されなかった原稿は受理されません。

送付先：〒310-8585 水戸市見和 1-430-1

常磐大学大学院学術論究編集委員会 宛て

（事務局：本部棟 2 階 学事センター研究教育支援係）

2. 有資格者について

『学術論究』に投稿することのできる有資格者は、次のとおりです。

〔参考〕大学院学術論究発行規程（第 4 条）

- ① 本大学院に設置する科目の授業担当者
- ② 本大学院博士課程（後期）に在籍する学生および研究生
- ③ 本大学院博士課程（後期）を修了した者（満期退学した者も含む）
- ④ 本大学院修士課程に在籍する学生および研究生
- ⑤ 本大学院修士課程を修了した者
- ⑥ 編集委員会が特に認めた者

注：筆頭執筆者が上記に該当すれば、その投稿は認められるものとします。ただし、筆頭執筆者が上記に該当しない場合、第 2 著者以降に上記該当者が含まれていても、その投稿は原則として認められません。

3. 募集論文の種類

- ① 原著論文 ② 研究ノート ③ 研究レビュー ④書評 ⑤学界展望 ⑥ その他、編集委員会
が特に認めたもの

原著論文と研究ノートはいずれも学術論文に含みます。いずれも独創的な研究で、科学上意義ある結論または事実を含むものです。

- ① 原著論文とは、著者による独創的な研究から得られた成果を報告する学術論文で、科学技術の進歩や発展に寄与するものです。その成果と内容、ならびに論文形式等が当編集委員（査読者も含む）によって原著論文に値すると認められた論文ということができません。
- ② 研究ノートとは、これまでの研究の大要を暫定的に報告した論文であり、新しい発見や着想を早く公表することを目的としたものをいいます。研究テーマにかかわる先行研究を詳細に概観する必要はありません。また図や表も最小限にとどめ、確定した事実だけを記し、後に改変の必要が起るような内容を含めないことが望まれます。
- ③ 研究レビューとは、当該研究テーマに関する先行研究をまとめたものをいいます。先行研究を網羅的にまとめ、当該研究の研究動向を論じたものなどが対象となります。
- ④ 書評とは、新たに発表された内外の著書または論文の紹介をいいます。
- ⑤ 学界展望とは、諸学界における研究動向の総合的外観をいいます。
- ⑥ その他とは、①～⑤以外の論稿であって編集委員会が投稿を認めたものをいいます。

以上の観点から、投稿者の希望と異なる論文種になる場合があります。ご了承ください。

4. 査読について

- ① 査読結果の通知について

原則としてすべての論文等に対して査読を実施します。編集委員会ならびに編集委員会が特に認める者（学外の者に依頼する場合もありうる）が査読し、掲載の採否を決定します。査読結果の通知および修正原稿の提出等、査読に関する作業は、原則として電子メール（データ添付）で行います。

査読結果は、次のA～Dの4段階で通知します。

「A. 無条件に掲載可能である。」

「B. 修正すれば掲載しても構わない。再提出後、修正完了の確認をする。」

「C. 大幅修正しなければ掲載不可（修正の上、再審査をする）。」

「D. 掲載不可。」

- ② 査読結果に対する異議申し立てについて

「D. 掲載不可。」の査読結果に異議がある場合、著者は1回に限り異議申し立てを行うことができます。異議申し立てを行う場合は、論文題名・著者名・異議申し立て事項および理由を記載した書面（様式任意）を、指定された期日までに学事センター研究教育支援係へ郵送してください（期日必着）。編集委員会では異議申し立ての採否を審査します。異議申し立てに対する審査結果は書面で著者に通知します。なお、異議申し立ての結果、掲載が認められた場合であっても編集日程の都合上、次号以降への掲載となる場合があります。

- ③ 査読の回数について

査読は2回までとします。2回目の査読結果が、「C. 大幅修正しなければ掲載不可。」または「D. 掲載不可」となった論文等は、掲載不可とします（ただし次号以降への再投稿は妨げない）。

II. 論文等原稿作成上の注意

- 頁構成
- 1 枚目 (表紙) ……表題、著者名他
 - 2 枚目 ……要旨 (Abstract)、キーワード (Key words)
 - 3 枚目 ……本文

《 1 枚目 (表紙) 》

下の 1 ～ 3 については、本文が邦文の場合は邦文・英文を併記し、本文が英文の場合は、英文のみを記載する。

1. 表題

「……の研究」というような大ざっぱな表記を避け、論文の内容、新知見を表記した簡潔で明瞭なものとする。また、長い場合は略題 (ランニングタイトル) をつける。

2 編以上の原稿を同時に提出する場合は、それぞれ別の表題をつける。

2. 著者名 (フリガナ)

3. 所属、領域、研究指導教員名

4. 図表の数

5. 抜刷希望部数 (贈呈分は50部です) ※50部を超える分は自己負担 (または個人研究費)

6. 連絡先住所・電話番号 (FAX番号; e- メールアドレス)

7. 編集・印刷上の注意事項の指示 (朱書)

《 2 枚目 》

1. 論文の要旨 (Abstract)

和文 (600字～800字程度) および英文 (150語～200語程度) で併記すること。読者が一読して論文の内容が明確に理解できるものとする。

2. キーワード (Key words)

日本語および英語で 5 個以内。やむを得ず邦語のキーワードを含む場合には、ローマ字表記の邦語のキーワードを併記すること。

《 3 枚目～本文 》

1. スタイル、枚数

A 4 判用紙に横書き。図表と写真は一点につき一枚に換算し、所定の枚数に含める。
また、必ず行番号を付してください。

[本文が和文の場合]

文章は現代かなづかいとする。

ワープロ使用

40字×30行設定で、①原著論文は16～20枚、②研究ノートは 8 ～10枚、③研究レビュー、④書評、⑤学界展望、⑥その他、についてはおおよそ8枚まで、とする。

なお変換できない文字や記号は、手書きで明瞭に書き入れる。

手書き

400字詰原稿用紙を使い、①原著論文は50～60枚、②研究ノートは25～30枚、③研究レビュー、④書評、⑤学界展望、⑥その他、についてはおおよそ25枚まで、とする。

[本文が英文の場合]

フォント11の活字を使用したワープロによる印字のみとし、30行設定で入力する。①原著論文は20～25枚、②研究ノートは10～20枚、③研究レビュー、④書評、⑤学界展望、⑥その他、についてはおおよそ10枚まで、とし、原語綴りは行端末で切れないようにする。

可能なかぎりネイティブの専門家の校閲を受けること。

2. 構成

論文の構成は次のように編成する。ただし、それらは必ずしも見出しの表記法を規定するものではない。〔注 1、注 2〕なお、中見出しは、適宜考慮して適切に表現する。

はじめに：序言または緒言に相当するもの。研究の位置づけおよび目的を明示する。

研究の方法

結果

考察

結論

謝辞…出来るだけ簡単に、研究費の出所等も記載する。

引用文献…〔注 3〕

図表・写真のタイトル（説明文を含む）…〔注 4〕

〔注 1〕 総説、講座、または専門分野の学会などの慣行に従うことが望ましい場合には、上記の構成の限りではなく、適宜考慮して記述する。ただし、学生が投稿する場合は、その標準的な構成を示したサンプルを一部提出することが望まれる。

〔注 2〕 自己の知見と他人のものとの比較で、異論を論じるだけの場合は、出来るだけ「結果および考察」に相当する一章にまとめる。ただし、その場合は、研究ノートに分類されることもある。

〔注 3〕（引用文献について）

1. 本文中に引用する際の表記法

文献に記述された内容を本文中に引用する場合には、基本的にはそのまま書き写さずに自分の言葉に置き換えて記述すること。

○ 1 名の研究者による文献の場合

Skinner (1967) は、……と述べている。

井上 (1993) の研究では、……が明らかにされた。

……と報告されている (Sidman, 1990)。

……が指摘されている (山本, 1997)。

○ 2 名の研究者による共同研究の場合

Horne and Lowe (1996) によれば、……

……が報告されている (Sekuler & Blake, 1985)。

……と報告されている (谷島・新井, 1996)。

○ 3 名以上の場合

・本文中に初めて出すときには、全ての研究者の名前を記述する。

柏木・東・武藤 (1995) は、……と述べている。

Matthews, Shimoff, and Catania (1987) は、……を調べた。

……が報告されている (Matthews, Shimoff, & Catania, 1987)。

・2 回目以降は、以下のように省略して記述する。

柏木他 (1995) は、……と述べている。

柏木ら (1995) は、……と述べている。

Matthews et al. (1987) は、……ことを指摘している。

……が指摘されている (Matthews et al., 1987)。

名前は基本的に姓のみを表記する。ただし、同姓の人物が引用されていて紛らわしい場合には、日本語名であればフルネームを書き、欧文名であればファーストネームのイニシャルを添えて書くこと。

※原文の直接的引用

どうしても文献の内容を原文のまま引用したい場合には、次のようにすること。

.....。高橋（2001）は、この問題に
関して次のように述べている。

（1行空ける）

ヒトの場合、言語行動が.....

.....（高橋，2001，p. 102）。

（1行空ける）

以上のように高橋は、.....

2. 引用文献のリストの書式

本文中に引用した文献は、全て最後の引用文献のリストに記載すること。
リストは、アルファベット順に並べ替えること。同じ著者の場合は、発表年
代順に並べる。

○初版の場合.

松沢哲郎（2000）. チンパンジーの心 岩波現代文庫

Skinner, B. F. (1974). *About behaviorism*. New York ; NY: Knopf.

○改訂版の場合.

芝 祐順（1979）. 因子分析法 第2版 東京大学出版会

Catania, A. C. (1984). *Learning*. 2nd ed. Englewood Cliffs, NJ Prentice-Hall.

○編集された書籍の場合.

Hayes, S. C. (Ed.) (1989). *Rule-governed behavior : Cognition, contingencies,
and instructional control*. New York ; NY: Plenum.

海保博之・原田悦子（編）（1993）. プロトコル分析入門 新曜社

○編集された書籍の場合（特定章）.

Chase, P. N., & Danforth, J. S. (1991). The role of rules in concept learning.
In L. Parrott & P. N. Chase (Eds.), *Dialogues on verbal behavior*. Reno, NV :
Context Press. pp. 226-235.

佐藤方哉（1983）. 言語行動 佐藤方哉（編） 現代基礎心理学6 学習Ⅱ
東京大学出版会 183-214.

○雑誌の場合.（DOI番号がある場合は記載すること）

木本克己・島宗 理・実森正子（1989）. ルール獲得過程とスケジュール
感受—教示と形成による差の検討— 心理学研究, 60, 290-296.

Shimoff, E., Catania, A. C., & Matthews, B. A. (1981). Uninstructed human
responding : Sensitivity of low-rate performance to schedule contingencies.

Journal of the Experimental Analysis of Behavior, 36, 207-220. doi :

10.1901/jeab.1981.36-207

○Webサイトの場合.

長瀬産業株式会社ヘルスケア事業部（2001）. <OLの化粧品に関する意識調
査>結果報告（2001. 12. 13.）<[http://www.nagase.co.jp/whatsnew/20011213.
pdf](http://www.nagase.co.jp/whatsnew/20011213.pdf)>（2002年 1月10日）

文献の標記の仕方については、「日本心理学会執筆・投稿の手引き（2005
年改訂版）」を参照すること（日本心理学会ホームページ

<http://www.psych.or.jp/tebiki.doc>）。

他に下記の書籍が参考になる。

APA(アメリカ心理学会)著 江藤裕之・前田樹海・田中建彦(訳) (2011) .
APA論文作成マニュアル 第2版 医学書院
原著

American Psychological Association (2010) . *Publication manual of the
American Psychological Association. Sixth edition.* Washington, DC : American
Psychological Association.

[注 4] (図表・写真について)

1. そのまま印刷できる鮮明なものを用いる。光沢のある白い印画紙の上に焼き付けたものかそれに準じたものとし、手書きは不可とする。また、大きさは横幅 7 ～14cm のものを用意する。文字の大きさについては、原寸大として使う場合は、最低1.5mmの高さが必要である。
2. 原図の裏には著者名・図表番号・天地の指示を鉛筆書きし、A 4 判の台紙に貼付する。特に、大きさや配置に希望のある場合は明記する。
3. 図表は、和文では「第 1 図」または「図 1 」、「第 2 表」または「表 2 」のように、英文では「Fig. 1 」、「Table 1 」のように表わし、本文中と統一する。また、タイトルおよび説明文(注記を含む)は写真判には含めず、別紙に表記したものを添付する。
4. 本文中で、図表挿入部位の表示は、本文の右欄外に朱書きで指示する。

III. 編集作業について

編集作業は以下の予定で行います。

1. 投稿募集案内と投稿申込書の配布 6月下旬
2. 投稿申込書の提出締め切り 7月中旬
3. 執筆要項、投稿提出用紙等の送付 7月下旬
4. 原稿提出締め切り 10月上旬
5. 査読者の決定と査読依頼書の送付 10月上旬
6. 査読締め切り 11月中旬
7. 修正原稿提出の締め切り 11月下旬
8. 再査読依頼 12月上旬
9. 再査読締め切り 12月中旬
10. 最終原稿提出締め切り 1月上旬
11. 入稿 1月下旬
12. 初校の送付(校正依頼) 2月上旬
13. 初校校正の締め切り 2月中旬
14. 校正最終締め切り 2月下旬
15. 校了・印刷 2月下旬
16. 本誌と別刷りの送付 3月下旬(予定)